

小型ガザミの混獲防止に関する研究

豊前海研究所

背景、目的

豊前海では、ガザミは「豊前本ガニ」としてブランド化を推進する重要種であり、漁業者は、稚ガニの放流や小型・抱卵ガザミの保護活動などに取り組んでいます。

しかし、主要漁業のカニカゴでは保護対象の小型ガザミが混獲され、資源管理上の課題となっていることから、カゴの網目拡大による混獲防止効果について検討しました。

成果の概要

(1) カゴからの脱出試験

漁業者が通常使用しているカゴ（網目6節：1目の長さ30mm）に加え、より大きな網目のカゴ（4節：50mm及び5節：37.5mm）を試作し、それぞれに小～大サイズのガザミを入れ、室内水槽で脱出試験を繰り返しました。その結果、網目を通過できない大きさのガザミはカゴからの脱出が観察されませんでした。このことから、ガザミはカゴの入口からではなく、網目から脱出することがわかり、網目拡大の有効性が確認されました。



ガザミ（ブランド名「豊前本ガニ」）

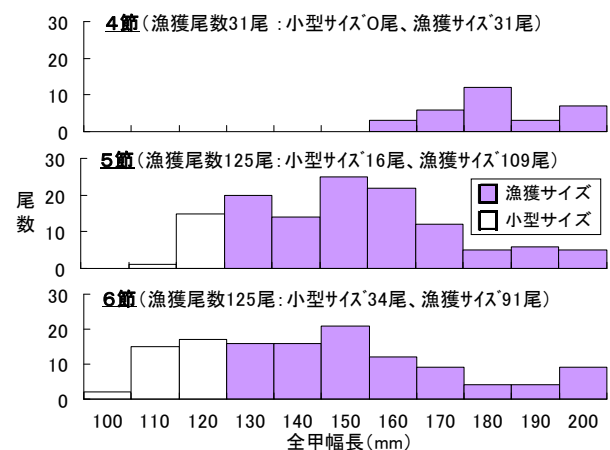
(2) 漁場での漁獲試験

試作カゴにより漁場での漁獲試験を行った結果、網目の最も大きい4節ではガザミの漁獲尾数が極端に少なかったものの、5節では漁業者が通常使用する6節と同程度の数が漁獲されました。

さらに5節のカゴは、6節に比べて小型ガザミの混獲が少なく、大きさ別の脱出率（5節／6節）を求めた結果、100、110、120mmサイズで各々100、93、12%と推定され、脱出効果が確認されました。



試作カゴによるガザミ脱出試験の様子



各網目のカゴで漁獲されたガザミの大きさ別組成